

# 園田学園女子大学

## ～ 正規の授業を e - ラーニング形式で開講 ～

園田学園女子大学では、正規の授業を e - ラーニング形式で開講しており、学生はネットワークに接続していつでも講義を受けることができる。毎回の授業に必要な教材提示のほか、テストの実施、課題提出、掲示板やチャットによる質疑応答など、教員 - 学生間のコミュニケーションを確立している。

### 1 . e - ラーニングの実施目的 :

- ・ 教員の授業準備を支援するため
- ・ 授業での教材提示を充実するため
- ・ ネットワークを介した学生との質疑応答などのインタラクティブ性を確保するため
- ・ 小テストなどによる学習履歴の把握や学習進度に応じた課題提示など自学自習支援のため

### 2 . e - ラーニングの実施規模

実施の規模 . . . . . 全学的に実施

e - ラーニングを活用する科目数 . . . 9 科目

基礎情報処理 (1) 600 人、基礎情報処理 (2) 600 人、 応用情報処理 200 人、

応用情報処理 200 人、情報倫理 90 人、 インターネットコミュニケーション 70 人、

情報処理技法 60 人、ネットワークとプレゼンテーション 20 人、 コミュニケーション入門 100 人

対象となる学生数 . . . . . 延 1,940 人

### 3 . 授業での位置付け

本学では、授業改善の一環として、学生自ら学ぶことで学生の学習に対する能動的な姿勢を涵養することを目的とする Web サイト上の学習システムを構築している。このシステムは、学生が自己のペースで学習でき、学習内容の確実な定着を図ることを目標としている。

ここに紹介している e - ラーニングとは、本学が開発したユニットという概念を導入した遠隔自己学習支援システムを活用しているものである。このシステムは自学自習できる学習教材と評価のための課題やテストなどが準備され、掲示板やメッセージ機能、チャッ



ト機能によるコミュニケーションと評価依頼・評価ができるもので、教員がインターネットを經由して担当できるものである。今回の紹介には、教材提示だけとか学習診断だけの利用は含まれていない。

授業での位置付けは、正規の授業で利用されており、 完全に対面授業をしないもの、 スクーリングのような形で数回の対面授業をするもの、 決まった時間に対面しながら質問などに対応しているもの、

授業の一部分に利用しているものなどがあるが、基本的には ~ で自ら学ぶ自己学習型である。学生は、自宅からも含めて、いつでもどこでも学習を行っている。

ただ、本学の授業の分類に e - ラーニングが含まれていないので、時間割上は、どこかにコマを入れたり、集中講義として登録したりしている。

また、コミュニケーション入門については、学外の講師が本学のシステムを利用して遠隔学習を実施している。距離に関係なく遠方からでも非常勤講師の方が授業を担当することができるのも e - ラーニングのメリットである。

#### 4 . 代表的な授業科目での活用内容

( 1 ) 科目名 『情報処理技法 』

( 2 ) 受講学生数 67人

( 3 ) 具体的な活用状況

この科目は情報処理関連の資格を目指した位置付けにあり、半期2単位15回の授業をe - ラーニングにより行っている。1回分の授業の流れは図1のとおりである。

から まで、授業目標の説明から自己点検、評価の依頼までを網羅した e - ラーニングシステムを開発し、そのうえで授業を展開している。

1回の授業は、毎回課題として提出を義務付けているワークシートの解説からはじまる。次に本時の目標、ストリーミング技術を用いたスライドと音声、映像を組み合わせた単元毎の主教材群へと続く。教材での学習終了後、ワークシート、5分間テスト、自己点検で学習内容などを確認する。1回を20点満点(9・15回目は総合試験で40点)として、15回で340点、合格ラインを200点にしている。

前回のワークシートの解説  
本時の目標  
主教材(ストリーミング技術を用いたスライドと音声、映像の組合せ)  
ワークシート  
5分間テスト  
自己点検  
評価依頼

#### 授業の流れ



15回のうち、1回目と中間7・8回目は全員が教室に集まり通常授業を行なう。1回目は授業の進め方、システムの使い方、評価の基準を伝えるため、7・8回目はe - ラーニングでの授業をどのように受け止めているかを聞きとる意味がある。

## 5 . e - ラーニングの活用により期待している効果

自ら学ぶことが必要な e - ラーニングは、学生にとっては受身で授業を聴くという従来の学習パターンでないため最初は戸惑うものもいるが、次第にその意義を理解し、能動的に取り組むようになってくる。その結果、学習内容の定着はもとより、自己学習力を身につけることができ、その効果は大きい。成績についても、課題やテストの結果がユニットごとにフィードバックされ、点数がガラス張りになっており、最後の評価を予測できるようになっているため学習意欲を喚起できる。



タイトル(Unit, 課題, テスト)	実行
U ストーリーの概念と作品例	修正 削除 期 選択して下さい 進行中
G このユニットの目標	修正 削除
R 課題1 自己紹介	修正 削除
M ダウンロード再生+リアルタイム再生	修正 削除
M SMLとは	修正 削除
M 実験に見てみよう -RealPixのサンプル	修正 削除
M 実験に見てみよう -RealTextのサンプル	修正 削除
M 実験に見てみよう -RealVideoのサンプル	修正 削除
M 実験に見てみよう -RealAudioのサンプル	修正 削除
M 実験に見てみよう -SMLのサンプル	修正 削除
M RealPlayerのソースを書いてみよう	修正 削除
R 課題2	修正 削除
T 小テスト1	修正 削除
G 自己点検	修正 削除
U 文字もあぐく!	修正 削除 期 選択して下さい 進行中
G このユニットの目標	修正 削除
M RealTextのヘッドパートの書き方	修正 削除
M RealTextの機能的な書き方	修正 削除
M テキストの移動 -横方向の移動	修正 削除
M テキストの移動 -縦方向の移動	修正 削除
R 課題3	修正 削除

(教材登録画面)

また、教員にとっては、初年度は自学自習教材や課題・テストなどコンテンツの準備が大変であるが、一度デジタル化してしまえば、部分的な修正を加えることで再利用が可能であり、丁寧な評価をしたり、学生とのコミュニケーションに割いたりする時間が確保できてきた。

## 6 . 大学の支援内容と今後の方針、拡大・改善の計画

広く他の学科での活用を進めるためには、コンテンツの開発の支援が必要である。今年度は情報教育センターがコンテンツ開発などの支援を行うことになり、本学の情報コミュニケーション学科の学生が協力している。しかしながら、スムーズな開発援助の体制を確保することが大きな課題であり、産学協同によるコンテンツの開発の方向も模索している。

今年度は、開発希望を学内で公募し、人間健康学部の食物栄養学科を中心としたコンテンツの開発がはじまっている。

《問い合わせ先》

園田学園女子大学 情報教育センター 課長補佐 谷口 一男氏

TEL: 06-6429-9909